

会報

第574号

平成28年7月1日発行

一般社団法人
監査懇話会

編集発行人 菅野 重雄

<http://kansakonwakai.com/index.html>

第286回監査セミナー

平成28年5月16日

講師：伊藤忠商事(株) 理事 別府 正之助氏
テーマ：監査役会と内部監査部門の新しい関係

1. ここ1年のコーポレートガバナンス動向

コーポレートガバナンス・コードが適用開始され、東証上場規程により2015年6月適用開始された。2人以上の独立社外取締役選任が求められ、監査等委員会への移行も始まり、また東芝の第3者委員会調査報告書が公表された。

監査役監査基準が2015年7月に改定され、各条項のレベル(1～5)分けが特徴である。コーポレートガバナンス報告書の提出が義務化され、未実施項目には説明が要求されている。未実施項目のトップ3は、「取締役会の実効性評価」、「議決権電子行使・招集通知英訳」、「独立社外取締役2名以上」の3項目である。取締役会の実効性評価の実施状況では、1部・2部上場会社のうち、64%が未実施である。

2. 上場会社のガバナンスに対する海外からの批判

(1)独立社外取締役の少ない取締役会
社内出身の業務執行取締役が圧倒的多数で、このような取締役会が、ガバナンス機能を発揮できるとは思えない。

(2)議決権を有しない監査役

監査役は取締役会に出席して意見を述べるができるというのが、代表取締役社長の選任・解任権がない監査役は無力である。監視される側の社長が、事実上、監査役を選んでいく。監査役が監査しているというが、資格を持たず教育・訓練も受けずに監査できない。

(3)社長の全面指揮下にある内部監査部門

ガバナンス機関への報告経路は確立していない。社長からの独立性が担保されていないと、社長の意向に反する監査はできない。社外役員は、内部監査部門から十分な社内情報を入手できていない。

3. 海外からの批判への対応

(1)日本の取締役会とはモニタリング型ではない

多くの日本企業の実効性評価は、業務執行の意思決定を中心的な役割とする。外部の目は、企業経営にとって有用かつ不可欠だが、独立社外取締役過半数の実効性評価を専ら監督機関とする日本企業は少ない。



(2)日本の上場企業のガバナンス専門機関は監査役会

日本企業のガバナンス機能は、本来、取締役会+監査役会が担っているが、社長主導の実効性評価を、監査役を廃止して監査等委員会に移行すると、日本企業のガバナンスは弱体化すると懸念する。

(3)内部監査部門への批判は的を射ている

内部監査部門の設置は、会社法や

上場規則でも義務化されておらず、組織はあるが専任者がいない上場会社が存在している。世界に通用するガバナンス体制とするための課題は、内部監査部門の位置づけを明確にし、社内の認知度をアップすることである。

4. 内部監査に関する最近の議論

(1)コーポレートガバナンス・コードでの言及

内部監査部門の役割への期待が変化している。経営陣の意を受けての経営の監視を行うと共に、今後は、取締役会(独立社外取締役)・監査役会と連携し、それらの経営監視・監督役割にも貢献する。

(2)日本監査役協会の動き

監査役が、内部監査部門に指示を出し、調査させ、報告を受けることは、もとより差し支えない。内部監査部門の人事、あるいは監査計画について承認することも同様、会社法上の制約はないとの意見が出ている。

(3)金融庁の考え

これまでの「金融検査マニュアル」では、内部監査部門が監査対象部門から独立しているかが着眼点だったが、今後は、内部監査部門は、経営陣を監督する取締役会の目となり耳となる。バーゼル委員会は、経営者よりも取締役会の方を内部監査部門の主たるレポーティングラインとしている。

5. 監査役会が抱えている課題

監査役会は、自ら監査しなければならないとの思い込みから脱却できず、内部監査との違いを分かりやすく説明できていない。内部監査部門

とのあいまいな「連携」関係では、内部統制システムを検証する専門部署である同部門をフルに活用することはできない。

6. 内部監査部門が抱えている課題

(1)経営への役立ち度、監査実務のバラつき

単なる検査（準拠性のチェック）から、経営に役立つ監査（根本原因を追究して改善のための提言）まで、著しいバラつき。社長と監査役会の理解と意識次第で、役立ち度に差が生じている。

(2)低い社内の認知度

内部監査部門をキャリアパスとして位置付けている会社はまだ極めて少数。

(3)貧弱な監査資源（数とスキル）

専任者1名が21%、2名が20%、3名が13%（上場会社の54%が3名以下）＝日本内部監査協会の「2014年監査白書」から

(4)監査品質向上への取り組みが不十分

世界のベストプラクティスを集大成した国際基準の考え方や手法を導入している会社は少ない。内部評価を実施している会社は少数。国際基準が求めている5年ごとの外部評価を受ける会社はさらに少ない。

(5)グループ子会社内部監査部門の指導不足

グループの内部監査機能一体化ができていない。

(6)社長からの独立性の欠如

社長直轄組織であるので、社内の各部門や子会社などの監査対象からは独立性を確保できている。社長の望まない監査はできない、取締役会・監査役会に監査結果を伝達しているが、後ろ盾になる仕組みは規程上も実態上も存在しない。

7. 内部監査部門の「2系統の報告経路」確立

(1)社長と監査役会への報告経路確立

内部監査は、本来、監督機能の一部として設置されるのが、世界標準の考え方であり、コーポレートガバナンス体制図に内部監査部門が掲載される理由で、内部監査部門指揮命令を受ける先を2系統にする。

(2)内部監査部門長の理解取得

内部監査部門は、ガバナンス体制の重要な一角を担い、社長から組織

上独立していなければならない。監査役会への報告が必要である。

(3)社長の理解取得

社長の強力なバックアップと、内部監査の指摘・提言を前向きに受け入れる社風の醸成が必要で、信頼されるガバナンス体制とするためには、監査役会は、内部監査の重要事項について、監査機能上の指揮を行うことについて社長の合意を得る。

(4)取締役会承認と開示

社長の合意を得て、取締役会で2系統報告ラインを正式に決議し、監査役会規程、内部監査規程などに必要な条文を追加する。「コーポレートガバナンス体制図」を改定して公表する。

8. 「3つのディフェンスライン」の考え方導入

モデルを社内に定着させることにより、内部監査部門の役割を明確化できる。

第1線：現場や支店での日常のオペレーションに組み込まれた管理。

第2線：第1線の管理を支援あるいは監視するための支社や本部のモニタリング機能。

第3線：内部監査部門は、その活動が有効に機能しているかを監査して、ガバナンス機関と社長に包括的なアシュアランスを提供する機能。

9. 内部監査の品質向上への支援

(1)個々の監査報告書の評価

社内監査役と社外監査役は、個々の報告書を読み、厳しく評価し、課題があれば改善を促す。

(2)品質評価結果の聴取と助言

内部監査部門で、上司やレビューアが個々の監査について内部評価を実施し、部門員・社内の有資格者による内部評価（定期的自己評価）を毎年実施する。監査役会は、内部評価の結果を聴取して、助言する。

(3)内部監査人としての専門性向上を支援

国際基準（IPPF）の習得を促し、公認内部監査人（CIA）の資格取得を勧める。

(4)海外子会社の内部監査部門との交流促進を支援

グループとしての内部監査体制が海外子会社内部監査部門を指揮する

体制を確立し、国際基準に則った報告書の様式、監査手法を習得する。

10. 監査役会と内部監査部門の定期会合

(1)定期会合の制度化

常勤監査役・独立社外監査役・監査役スタッフ・内部監査部門長が、毎月、緊密に意見交換する。

(2)協働の必要性確認

両機関が、ガバナンス機能を担っている。お互いの強みを生かし、弱点を克服する必要がある。

(3)リスクベースの監査計画

会社にとって許容できないのではないかと思われる水準のリスクを許容していないかを検討する。

(4)監査結果の聴取

個々の監査報告書を基に、報告書に記載されなかった事項、フォローアップすべき事項、社長や取締役会へ伝えることを話し合う。

(5)情報交換

監査役会側からは、取締役会・経営会議など重要会議の審議結果、会社法の改定などを伝える。

(6)内部監査部門の中期計画策定を助言

どのような姿を目指しているのかを明示する。

11. 監査役（会）への期待

(1)内部監査の地位向上と円滑な活動への支援

貧弱な内部監査部門は、社長と監査役会の責任。監査役会は適切な人員（数と能力）の確保を社長に進言する。

(2)内部監査部門長および部門員の育成・激励

内部監査部門員に監査役スタッフを兼任させ、内部監査部門長が、監査役室長を兼任するのも一法である。

(3)内部監査の学習

世界共通の公認内部監査人資格取得に挑戦する。

(4)日本監査役協会・監査懇話会の中での研究と発信

各社の協働実務の現状を発表し、先進的取組みを学び、日本内部監査協会との共同研究を検討する。

（文責 野口 裕之）

講師：元中国大使 宮本アジア研究所代表 宮本 雄二氏
演題：習近平の中国の行方

1. 貴州省の発展

先週、中国・貴州省を15年ぶりに訪ね、発展ぶりに驚かされた。私の大使時代には山また山の典型的に貧しい地域だったのが、高速道路網が整備され高速鉄道も走り、昨年、一昨年と重慶に次ぐ国内で2番目の10数%の成長を遂げている。10年がかりで人口300万人の新都市（貴安新区）作りを始め、3年目に入っている。中核の産業としてクラウド産業を据え、台湾の鴻海や米ナンバーワンの半導体企業が進出している。国が認可して大きな優遇措置が受けられるので、資本投下が相次いでいる（しばらく前に鴻海精密工業も投資）。大学も集中させ、12もの大学を設立している。IT技術者が必要だということで、インドの大学を招致している。走りながら考える中国経済の典型を見るようだ。中国の経済発展の第1ラウンドは旧満州・東北3省を中心とした国有の重厚長大メーカーに始まり、次に国有企業の少ない沿海地域において民営企業を中心に加工貿易を発展させ、いまは重慶や貴州のような第3ラウンドに入っている。重厚長大産業や加工製造業の悪戦苦闘で経済の行き詰まりは深刻との見方が強いが、同時に様々な新たな変化もあり中国はあらためて広く、多様であり、変化は早いことを実感した。

2. 大転換期、改革の力ギは経済改革

習近平が今どんな状況に置かれているか。彼は2012年に党総書記になったとき、胡錦濤時代10年間で深刻化した問題、先送りされた問題の大改革を背負わされたといえる。30有余年にわたる高度経済成長の結果、経済・社会は大きく変わり、これまでうまくいったシステムは相当なオーバーホールを迫られている。安価な労働力に頼った加工貿易で世界の製造業大国となったが、労賃が上がった今、労働生産性を高め、もう一

段高いレベルの経済に変える改革を迫られている。また大気汚染、水、土地の汚染など広範囲な環境問題があり、食の安全問題もあり、国民は相当に怒っている。日本企業が山東省で循環型農業をしようと進出したが、土地の農薬汚染で大規模な土地は確保できなかったという話もある。高学歴社会になり人々の関心と利益は多様化し、一つ、二つのスローガンで国をまとめる時代は終わった。中国共産党の統治の正当性を得られるように、愛国主義を教育しナショナリズムを煽った結果、強硬な外交姿勢を取らざるを得なくなっている。



この大転換期に全面的な改革のカギとなるのは経済改革であり、それによる持続的経済成長が必要だ。2016年の国家予算は対前年比7・2%の伸びで軍事費も似た数字だが社会保障は10%以上の伸びだった。ついに中国政府も社会保障に力をいれないと国民との関係が持たなくなっている。毎年税収の伸びを確保しなければならず、一方で労働者の賃金を上げてさらに1600万人の新規就業者に職を与える必要がある。

経済がうまくいかないとたちどころに国民の不満が出てくる。過剰生産力の是正と国有企業改革、経済の構造改革ができなければ「中進国の罠」から抜け出せず、持続的経済成長もない。習主席にとって経済改革が進まないと明日はない。資源を最も効率的に配分できるメカニズムが市場。この重要性の認識がどこまで

あるのか、いまいち確信が持てない。

3. 反腐敗と機構改革

反腐敗は権力の掌握による改革の推進と効率的な官僚機構をつくる手段である。こうした改革の反対勢力が既得権益層だ。江沢民が長く権力を持ってきたためにこの系列が腐敗している割合は高いし、胡錦濤の10年を足すと20年間で実入りの良い、政治的コネもあるこれら既得権益層が急速に増えた。主席就任の際、この連中に言うことを聞かせ腐敗部分の既得権益をはく奪し、改革するにはトップに権限を集中する必要があるという党内世論のコンセンサスがあった。このため、ご存知のように彼は反腐敗で権力を掌握し、改革に手を付け出し、ことに人民解放軍改革は圧巻だった。

ところが今年に入っておかしな動きをする。自らの権威を高め「党中央＝習」への忠誠を求める動きを活発化させた。自らを「核心」と呼ばせる運動を起したり、日本の紅白歌合戦に匹敵する人気テレビ番組を習礼賛に終始させたり、メディアに乗り込んで「党中央＝習」に従うように求めたりした。党規約にある「個人崇拜禁止、集団指導体制」に明らかに反する。彼自身の能力も実績もまだ認められたわけではなく、父親も最高の権力者であったわけではない。その彼が「個人崇拜」を求めたところでついていくはずはない。4月からは軌道修正した。

習主席らが党内の大物をたたいて皆を黙らせることには成功した。そうした組織に起きるのは面従腹背。歯向かう者はいない代わりに指令・指示が徹底しない。反腐敗でたたく範囲が広すぎる。彼はまじめすぎて本気で共産党を国民皆に好かれる立派な組織にしたいと考えている節もある。しかし、過半数を超えるところをたたき続けるのは無理がある。官僚機構としてはいい加減にしてく

れ、となる。脛に傷を持つ人は多いから引き続きたたくとなると、目立つとまずいから党内組織はサボタージュ状態が続く。トップがやろうと思っていることがうまくいかない。それを变えようと自らの権威を高め、上からものを聞かせようとしたが、長老、党员、知識階級から総スカンを食って頓挫した形だ。大物を捕まえ、ある程度の機構改革ができたのは、党内世論の支持があったことを忘れていた。今回の軌道修正で力を見透かされたところもある。これからは「話し合って決めたことだから守れ」としか言えないが、大改革を進める時には独裁者の能力が必要で合議制では迫力のある政策は出て来にくい。効率が悪くなり改革の成果も落ちる。ここがジレンマだ。

経済改革は厳しい局面にあるが、一方で中国は広い。遼寧省のように低成長に陥ったところもあれば、貴州省のように高成長を続けるところもあり、経済の専門家は“経済成長はまだ模様”と言う。これが実態だろう。GDPの半分以上を個人消費が占めるようにもなった。労働人口の吸収が高い第3次産業が急速に発展している。また、2008年のリーマンショック後につぎ込んだ4兆元の大部分が地方の分で、隠れ負債問題もあるが、かなりいい加減な体質のため逆にのりしろもあり簡単には倒れず、成長が続くともみられる。中国の現場のエコノミストは悲観していない、と言う。今、中国国内で最も心配されているのは「政治」の不安定。経済も含め全てに政治が絡む世界だけに、来年、5年に一度の第19回党大会での人事が注目されている。定年の幹部の後釜に習主席がどれだけ自派を起用できるのか。それと違うグループも派閥拡大を日夜考えている。それに伴い様々な情報が漏れてくる。明確な改革派の李首相を巡って何かあるのか。1月からの動きも権力争いが絡んでいるのか。政治が底流でガタガタし始めていることは確かだ。暗闘は水面下で行われ、来年の党大会まで政治、経済的にあまり大きなことは起こらないのではないかと。するとまた改革が遅れることになるが。

4. 対外関係

中国は100%グローバル経済に組み込まれている。かつて天安門事件の後、わが国が経済援助を再開したことに批判はあるが、この決定は改革開放政策を続けさせ中国を世界の中に取り込んでいくことが目的だった。グローバル経済に中国は完全に組み込まれ、世界各国と相互依存が深まり、国際秩序を壊す喧嘩はできず、中国もこの中で動く、と言っている（部分的修正を求めてくることはあろうが）。

国内経済状況が難しいので、対外関係は調和的にいきたいのが本音だが、2012年の日本との尖閣問題を契機に手を振り上げてしまった。それ以前の2010年に外交部が南シナ海は台湾、チベット等と並ぶ核心的利益だと言いだした。これは08年のリーマンショックでアメリカの背中をとらえ追い越せる、ついに中国の時代が来たと錯覚し、対外関係は強硬姿勢で行け、となったことによる。胡錦濤政権はぎりぎりまでその動きを押さえていた。2012年の尖閣諸島の日本のいわゆる「国有化」から、吹っ切れたように強硬姿勢に転じる。世界の目が尖閣に集まっている間に、ベトナム、フィリピンに先を越された南シナ海の権益の遅れを取り戻そうと、両国が先に手を付けた島の何十倍もの面積を埋め立ててしまった。アメリカは当初話し合いで中国を譲歩させようとみていたが、昨年秋、オバマ・習会談で習は譲歩しなかった。会談決裂間もなくハリス太平洋軍司令官が南シナ海での自由航行作戦を発表した。アメリカの国防予算は中国の4倍。戦後70年間、圧倒的な軍事大国であり続け、最先端兵器開発でも大きく先行し、議論はあるが実際の軍事行動もずっと続けてきた。これに対し中国は1979年の中越戦争が大規模な軍事行動の最後。習体制は軍事的にアメリカと対峙する選択肢はないと言える。しかし、アメリカとの関係を戻したくとも強硬姿勢のままいくと、南シナ海でぶつかるか、それとも屈服するか。どちらでも習主席の責任となる。対外関係の強硬姿勢は大きな対価を支払うことになる。

5. 今後の動き

習近平は経済、対米関係の二つのアキレス腱を抱えながら来年の党大会まで乗り切らねばならず、その後の5年間もある。2020年の中国共産党建党百周年には「小康社会」実現（2010年のGDP並びに一人当たり所得の倍増）の数値目標があり、そのためには16年から20年まで年平均6・5%成長が必要だ。これが実現しないと習政権のみならず共産党の威信も大きく揺らぐ。さらに、これらは鄧小平が作った「共産党の指導、社会主義の堅持」という大きな枠組みの中にある短期的・中期的目標にしか過ぎない。この任務を50～60点で達成できれば成功と言えるのだが、しかしその後の持続的経済成長のためには、鄧小平の枠組み自体の見直しが必要になる。それがロシアのように共産党の消滅になるのか、どんな形になるのかは、今は見通せない。

6. 対日関係

対日関係は経済問題、対米関係の次に位置づけられる。関係を改善して、より高度な経済構造に転換するための役割を日本が果たすようになれば彼らは喜ぶだろう。安倍首相もアベノミクスを中国を使ってどう強化するかという観点で彼らに協力してもらったらどうか。2020年までの4000万人観光客招致の実現には中国人は欠かせない。現在1億人以上が海外へ出かける国なのだから。被災地、熊本の復興で観光の基盤整備に中国の民間ファンドに投資してもらう手法もある。9月に中国で開かれるG20では安倍・習で握手をし首脳会談を開き、また漂い始めた日中関係をしっかりとものに築き上げてほしい。日本も中国も世界も綱渡りの日々が続くが、最低限日中がもっと話し合い、手を握る関係にしておいた方がよい。

（文責 同研究所事務局）

日本銀行本店、日本銀行貨幣博物館

日本銀行本店見学の事前予約は3か月前から申し込みを行い、見学者全員の氏名と住所を提出し、見学当日に身分証明書と提出した氏名と住所と同一人か確認するという厳しさでした。3か月前の申し込みでも、その日のうちに満席になるなど人気の高さが窺えました。

5月10日天気は晴で、10時30分の集合時間にほぼ全員が本店の中庭に集合し、今回は、当日のキャンセルもなく、54名参加、そのうち18名は現役監査役の方々でした。

本店の本館内にて、全員の登録を済ませ、ナイフ、はさみ、金属類、ペットボトルなどは持ち込み禁止で、最後に金属探知のゲートでチェックされるというもののしきです。

11時に講堂に集まり、日銀の概要をビデオにて説明を受けました。日本銀行は、わが国唯一の中央銀行で、明治10年6月に日銀法が制定されて10月10日より業務が開始しました。銀行の銀行でお札の発行、古いお札の回収廃棄、物価の安定、為替の介入などが業務内容です。

日本銀行の資本金は1億円で政府が55%の株を所有しており、日本銀行法が定めている認可法人です。また職員は公務員規定に準じているとのことでした。

この後18名で3班にわかれ、本店内見学となりますが、説明員の方以外に警備員が各班に1名同行、また各所には警視庁の警察官が配備されており、日銀の業務は安全に行われていることが良くわかりました。

本館は明治29年に建てられており、中庭は馬の給水設備、重厚な建造の入り口、ステンドグラスのある待合室、吹き抜けのロビーなど八角形に作られた建築物で重要文化財に指定されています。本館の建物を上から見ると円の字に見えると言われているのですが、明治時代の円の字は圓の字であり偶然の事ではないかとのこと。総裁用廊下には歴代の著名な総裁の肖像画が7点展示されて

おり、初代吉原重俊、3代岩崎彌助、7代高橋是清、18代一萬田尚登などです。

地下の大金庫は現在使用されていませんが、1万円札で1,000億円入り、米国のヨーク社製で扉の重量は15tあります。展示用としてレプリカですが、14.5kgの金塊、1万円札で1億円分の札束を手にすることができ、大金の体感ができました。

新館では銀行業務を行っており、警察官が警備するなどものものしい雰囲気ですが、職員は自由な服装で落ち着いた対応でした。一般の民間の方が日銀を利用するのは、お札が損傷し半分以上残っている場合の新札への交換、偽札の届け出、10万円記念金貨の交換などです。

12時10分見学終了後中庭にて集合写真を撮り、向かい側にある日銀貨幣博物館へ移動し入館の手続きを行いました。博物館ですので代表者のみの簡単な登録でした。日銀貨幣博物館は昨年11月にリニューアル化されており、貨幣の歴史がわかりやすく展示されています。

日本初めての貨幣は和同開珎と言われていましたが、学会では、飛鳥古墳で出土した富本銭が最初期の貨幣と言われており、初めて目にすることが出来ました。その他奈良時代の和同開珎等、皇朝十二銭、鎌倉時代から室町時代の中国、安南、朝鮮から輸入した渡来銭など。太閤秀吉が作らせた太閤円歩金、天正大判金など。江戸時代の慶長大判金、小判金などは幕府のお抱え師後藤家により、江戸、駿河、京の金座で製造され、銀貨は銀座で製造されていました。

江戸時代の一般的な通貨は丁銀、豆板銀で重量をはかり使用します。少額貨幣は有名な寛永通寶一文銭、四文銭で、製造場所、字体により3,000種類あるそうです。江戸期後半には、定量銀貨の一分銀、二朱銀、一朱銀が発行されました。文政、天保、安政時代は徳川幕府の財政難から、この時代の小判、分金は

慶長期の小判より一回り小さく半分の重量となり、金の含有量も半分程度と、徳川幕府の衰退が貨幣の変遷から読み取れます。また幕末期は海外からの開国を迫られ、貿易に使用する金貨は小判が主体ですが、当時の日本では金1に対し銀8の交換比率であり、海外では、1対16なので小判が海外へ大量に流失しました。幕府はこの対策として万延小判金を製造し対抗しましたが、時すでに遅く大政奉還となりました。

明治政府は貨幣の単位を両、文から圓、銭とし、紙幣、金貨、銀貨、銅貨を製造し、金本位制を採用し、その後大正、昭和と貨幣の価値は下落するも貨幣制度は続き、太平洋戦争中は物資がなく貨幣は錫貨、瀬戸物の陶貨が製造されました。戦後しばらくしてから、円が最小単位の現在の貨幣制度になりました。日本で初めて発行された記念貨幣は昭和39年の東京オリンピックの1000円銀貨と100円銀貨です。平和な時代となり、その後多数の記念貨幣が発行されています。

その他、日本の貨幣制度ができる前の、紀元前のアテネ、古代ローマ、ペルシャなどシルクロードのコイン、古代中国の春秋、秦、漢時代の貝貨、布幣、刀幣などの古文銭等、世界の歴史の変遷にもふれられました。

午後1時過ぎには見学終了となり、自由解散としました。参加された皆様のご協力をいただき、今回の研修見学会が無事終了できました。有難うございました。

(大場 一彦)



第8回定時社員総会

監査懇話会の第8回定時社員総会は5月26日金曜日午後1時15分から例年同様の日比谷図書文化館コンベンションホールにて開催された。総会出席者は75名。菅野会長が議長となり開会を宣言、眞田監事の監査報告の後、菅野会長が平成27年度事業報告を行った。概況として、改正会社法やコーポレートガバナンス・コードへの対応として機関設計の見直しを行う会社が多く、本年4月末で560社を超える会社が監査等委員会設置会社に移行あるいは表明をしていること、また大企業子会社では監査役会を廃止して監査役設置会社に移行する例が少なくないことが説明された。監査部会では監査等委員会設置会社に関する検討会を立ち上げるなど、積極的な活動がなされた一方で、新任監査役を対象としたセミナー等への参加者が減少したことは課題と説明された。更に決算については262千円の黒字となったことが報告された。以上につき質問は無く次の決議事項の審議に入った。貸借対照表及び損益計算書、利益処分案はいずれも拍手により賛同され承認可決された。

次に、平成28年度事業計画及び予算（損益計画）の件、会費一部改定の件、特別聴講制度導入の件の3議案につき説明がなされた。まず、解決すべき課題とし

て、(1)会員増施策の一層の強化を柱とする収入の増加、(2)各種行事のあり方見直しを含めた支出の抜本的な削減を基本方針とし、①同一企業からの複数会員獲得活動の強化、②ホームページの充実を柱とする対外発信力・知名度向上策の拡充、③監査セミナー・講演会の部外者への有償開放による収入増と当会認知度向上の施策、並びに監査部会活動の見直し、バス利用研修見学会の開催回数削減の方針が具体的に説明された。また、中長期的課題として事務所移転と基金や剰余金の有効活用等の議論を重ねることも紹介された。以上につき質問なく一括審議となり、拍手により承認可決された。最後に、理事及び監事の選任議案が承認可決され社員総会の閉会が宣せられた。ここで新任理事及び監事が紹介され、新メンバーとなった理事会が開催されている間に、退任・辞任理事・監事の挨拶が行われ、その尽力と貢献に対し会場から盛大な拍手で謝意が表された。最後に、開催されたばかりの理事会で会長に菅野重雄氏、副会長に藺川和彦氏と渡辺克司氏が選出されたことが報告され、菅野会長が挨拶して午後2時にすべてが終了した。

(関根 紳仁)

新任理事ご挨拶

理事就任にあたって



金馬 房雄

このたび、理事に選任され、監査セミナー委員長を拝命しました。なお、今まで所属している監査実務研究会及び企業集団内部統制監査委員会の活動は今後とも担当させていただきます。

私は、京都に本社がある日新電機株式会社の常勤監査役を6年間勤め、一昨年退任しました。その間、監査役協会関西支部の監査実務委員会等で、更に親会社である住友電工株式会社の連携監査役会議等で情報交換や研究活動に従事して参りました。

13年振りの東京生活での人脈作りもあって、昨年3月に監査懇話会に入会し、本会の研究会や講演会等にはほとんど参加させていただきました。発言しすぎたせいか、3つの委員会からお誘いを受け、今日に至っております。

今後皆様と共に、楽しく前向きに活動して参りたいと存じますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。なお、本6月に東京の一部上場会社の補欠監査役に就任予定です。

理事就任にあたって



羽持 彰

このたび、理事に選任され、広報委員長及び取締役職務確認書委員長を拝命いたしました。

私はオリックス自動車(株)常務執行役員から2010年(株)プラザサンルート(舞浜ディズニーホテルサンルートプラザ東京)監査役、2012年オリックス自動車(株)監査役を歴任し、その間に監査懇話会に入会、ご縁を持たせていただきました。当懇話会ではスタディグループ分科会や広報委員会で少し勉強もし、飲み会・遊びも含めて、皆さまとご交誼をいただき、親交を深めさせていただきました。

た。その交流の中で当会の皆さまの「優しさ、厳しさ、楽しさ」に触れて、ある意味“のめり込んだ”感があります。

2014年6月監査役を退任してからは会友として活動を継続していますが、理事就任で更に当会の活動に注力してまいります。皆さまのご指導をよろしくお願い致します。

また現在東京学芸大学研究生として「江戸期金融業大店の内部統制」というテーマでの研究も、当会の皆さまとの活動を通じてのご示唆によるものです。

理事就任にあたって



太田 剛

5月26日に開催された第8回定時社員総会で理事に選任され、総務担当及び企業集団内部統制に関する監査役職務確認書委員会委員長を拝命いたしました。

私は2011年4月の三井不動産リフォーム(株)常勤監査役就任と同時に、監査懇話会に入会し、スタディグループ分科会をはじめ様々な会に参加してきました。監査役実務マニュアル委員会には執筆担当として参加、企業集団内部統制に関する監査役職務確認書委員会にも3年前から参加

をさせていただくなど、諸先輩の厳しくも温かいご指導のもとで勉強を続け、何とかここまでたどり着きました。4年間勤めた常勤監査役は昨年春に退任しましたが、縁あって本年4月より別の会社の非常勤社外監査役を務めています。この度総務担当ということで微力ながら、当会の益々の発展と皆様の各活動のお役に立てるよう当会の庶務全般を務めさせていただきます。皆様のさらなるご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い致します。

監事就任にあたって



渡部 潔

この度、監事を拝命いたしました。何卒宜しく願いいたします。私は(株)日本興業銀行(現みずほ銀行)及び協和発酵工業(株)を経て2011年2月に川口化学工業(株)(東証二部上場)の常勤監査役に就任し、一期を勤めた後、2015年6月から東邦アセチレン(株)(東証二部上場)監査役として勤務しております。監査懇話会では「企業集団内部統制に関する監査役職務確認書」の作成に委員会の創設当初からかわり、その後は

「最新 監査役の実務マニュアル」(新日本法規出版)の出版に執筆メンバーとして参画しました。監査懇話会は、真摯かつ虚心坦懐に、またアットホームな雰囲気の中で監査役制度について研究を進めている素晴らしい組織です。コーポレートガバナンスを取り巻く環境は大きく変わりつつありますが、監事として微力ながら当会の発展のために努力したいと思いますので、何卒宜しくご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

第25回合同展開催

5月8日（日）～5月12日（木）に文京シビックセンターの1階ギャラリーにて、写友会・句遊会・画友会共催の「第25回合同展」が開催されました。出展は、写真47点、俳句・写真の共作18点、俳句10点、絵画24点、合計99作品でした。今回は、連休直後のせいか来場者が前回より少なく五日間で837名でした。前回、外国人が来場したことから、今回は、キャプションそし

て俳句も英訳して表示してみました。三日目に外国人が来場したとのことで、少し役に立ちました。最近、写真を見て一句詠むバラエティ番組が人気ですが、合同展では以前から写真と俳句のコラボレーションをやっており、来場者にも楽しくご覧いただいていたようです。

（合同展委員 川村 知重）



第228回懇親ゴルフ会

5月31日（火） 八千代ゴルフクラブにおいて第228回懇親ゴルフ会が開催されました。

前日までの雨でコンディションが心配されましたが、何とか天候は回復し、21名（初参加者2名）の方が参加されてOUT・INに分かれて和やかな大会となりました。

結果は次のとおりです。（新ペリア方式）

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HC	NET
優勝	佐藤 政夫	44	38	82	8.4	73.6
準優勝	加地 昌博	46	51	97	21.6	75.4
3位	田村 邦彦	46	56	102	26.4	75.6

ベスグロは初参加で優勝された佐藤政夫氏でグロス82でした。

次回は2016年11月4日（金）に小田急藤沢ゴルフクラブにて開催予定です。

皆様のご参加をお待ちしております。





句遊会

五月詠草

兼題：初鰹、柏餅、当季雑詠

初鰹色を合わせて赤ワイン

城戸崎

黒潮の香りどどんと初鰹

佐藤

厚切りの炙り刺身や初鰹

清家

初鰹海の碧さをもて糶^せらる

六川

兼題を肴に一献初鰹

安井

初鰹ひときは高しせりの声

生江沢

割り当てのみそ餡くやし柏餅

中山

床の間に鎧兜や柏餅

森

子は自立夫婦で食べる柏餅

石原

咲きて知るこんなにも藤この山路

宮川

白鷺の川面を睨む野生かな

大仲

透き通るめだかの生命我に射す

高橋

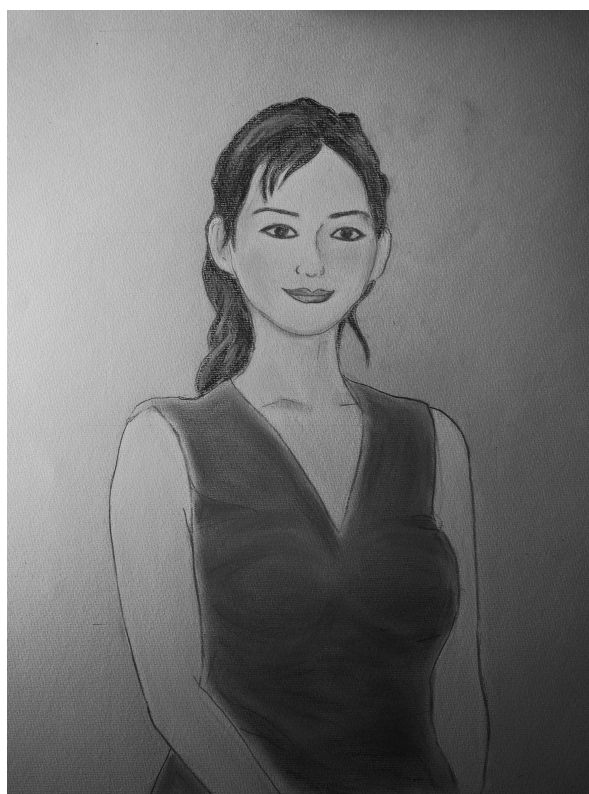
アマリス笑める昭和のジャズ喫茶

石野

犬の塚今日はタンポポ供えけり

真田

画友会



「現代の美女」

パステルF10

城戸崎 雅崇

画友会とは別の会で、さまざまな画材で同じ美女を描いてみようという試みがあり（まず「原節子」について「吉永小百合」）今回の課題は「綾瀬はるか」

事務局通信



◆行事報告

第131回理事会

5月26日(木)16:15～17:00 日比谷図書文化館 15

会報委員会

編集

5月9日(月)10:00～12:00 事務局 5

校正

5月20日(金)10:00～12:00 事務局 5

広報委員会

5月11日(水)14:00～17:00 事務局 9

ホームページ委員会

5月11日(水)10:00～12:00 文京区民センター 14

第8回定時社員総会

5月26日(木)13:15～14:15 日比谷図書文化館 75

◇一般部会

第525回研修見学会

5月10日(火)10:30～13:30 54

日本銀行本店、日本銀行貨幣博物館

第726回講演会

5月26日(木)14:30～16:00 日比谷図書文化館 114

講師 元中国大使、宮本アジア研究所代表

宮本 雄二氏

演題 習近平の中国の行方

第228回懇親ゴルフ会

5月31日(火)9:22～ 八千代ゴルフクラブ 18

◇監査部会

第286回監査セミナー

5月16日(月)14:30～17:00 スカイホール 66

(体験3名)

講師 伊藤忠商事(株) 理事 別府 正之助氏

テーマ 監査役会と内部監査部門の新しい関係

第194回監査実務研究会

5月25日(水)14:00～17:00 文京シビックセンター 26

問題提起者 東邦アセチレン(株) 監査役 渡部 潔氏

テーマ 監査役と資本市場

(資本市場関連法の整理と資本コストの理解)

第47回スタディグループ分科会

5月9日(月)14:30～17:00 文京区民センター 24

発表者 (株)ユニマット リタイアメント・コミュニティ 常勤監査役 高橋 英生氏

(株)極楽湯 監査役 山田 貞一氏

テーマ 株主代表訴訟と取締役会監査

第46回独立委員会セミナー

5月17日(火)14:30～17:00 文京シビックセンター 29

講師 (株)システムインテグレータ

監査役 眞田 宗興氏

テーマ 親子会社を巡る監査役事件簿

◇生涯学習部会

画友会 写生会

5月15日(日)～16日(月) 箱根強羅 9

句遊会 例会

5月11日(水)14:00～16:00 菱友会会議室 11

楽友会 例会

5月11日(水)13:00～17:00 文京シビックセンター 15

囲碁会 合宿

5月20日(金)～21日(土) 熱海 4

棋友会 例会

5月24日(火)13:00～17:00 東京六甲クラブ 10

◇同好会

声友会

5月10日(火)13:00～16:00 (銀座)505 9

エッセイクラブ

5月30日(月)13:00～17:00 文京区民センター 15

会 員	会 友	計
165	148	313

H28.5月末現在



編集後記

☆講演会では宮本雄二元中国大使が中国では来年の5年に一度の党大会開催を控えて政治が底流でがたつき始めている、と指摘。持続的な経済成長のためには大改革が必須だが「政治優先」の国だけにどうなることか。翻ってわが国。安倍首相が消費税増税の延期を打ち出した。経済を巡って世界中、綱渡りの日々が続く☆研修見学会ではお金と金融政策の元締め、日銀を訪ねた。1億円相当10キロの模造紙幣や14.5キロの金塊モデルを持ち上げてみた。重さは実感したが、所詮縁なき衆生にとっては、やがて寂しきなんとやら、であった。☆監査セミナーでは別府正之助・伊藤忠理事が世界に通用するガバナンス体制作りには内部監査部門の充実が必要と強調した。監査役会は支援、提携を進めるべきとも。

(清水 光雄)